

日本丸クルーズ 2025



2025年8月

旅のチカラ研究所 植木圭二

まだ暑い8月の下旬、私と妻は神戸からクルーズ船「日本丸」に乗って横浜に向かった。今回のクルーズは、かつて別のクルーズ船で知り合った人たちとの再会のために計画した。そして神戸出港の前に大阪関西万博も見学したので、合わせて報告したい。

■MSC クルーズの友人たち

2019年、私と妻はジャパネットタカタがチャーターしたイタリア MSC 社のクルーズ船「スプレディダ」に乗って10日間のクルーズを楽しんだ。その時に知り合った人たちとは、下船後も交友が続いている。それは全員が同世代の夫婦ということも関係しているのだろう。

今回はその人たちと再度のクルーズを楽しむために、神戸港から横浜港に行く商船三井のクルーズ船「日本丸」のワンウェイクルーズに皆で申し込んだ。このクルーズを選んだ理由は、今回の参加者は関西在住と関東在住ということで、どの夫婦にとっても片道がクルーズになるという条件が同じになるからだ。

■大阪関西万博

このクルーズには特典として大阪関西万博の入場券が付いている。一般的に出港地に戻らないワンウェイクルーズは敬遠されがちなので、その対策のような気もするが、私にとっては万博に行く機会を狙っていたのでむしろ好都合だった。

実は私にとって万博は強い思い入れがある。それは1970年、当時中学生だった私は大阪万博に行きたくて少しずつ旅費を貯めていたが、残念ながらそれは実現しなかった。

断念した理由は、資金面もあるが、中学生が一人で行くにはあまりに計画が稚拙だったからだ。その教訓から高校生になった私は念入りに計画を立てるようになった。かといってそのような念入りな計画が現在も続いている訳ではない。これもまた教訓によって変化していった。その話はまた別の機会に触れることにしよう。

クルーズ船が神戸港を出航する前日の朝、私と妻は万博会場に向かった。

会場に着いたのは朝の9時というのに太陽は既に高い位置にあって、ジリジリと強烈な日差しが照りつけて厳しい暑さになっている。

この対策として、万博協会は大量の日傘を無料で貸し出している。それによって入場ゲートの前の広場は晴天にも関わらず満開の傘の花が咲き誇るという珍しい光景になっている。いや近年ではそれは珍しくないかもしれない。



【万博会場の入場ゲート前の様子】

満開の傘の下、私たちは約1時間待って入場する。

近くにいた会場スタッフに「いつもこんなに待つのですか？」と聞くと、「今日は平日なのでまだ良いほうですよ。しかも午前中だからまだ空いていて、午後になるともっと混みますよ」と言っている。私は「何人くらい人が来るのですか？」と聞き返すと、「そうですね、12~13万人ですかね」とさらりと言っていた。

いよいよ私にとっては55年間待ち焦がれていた万博見学が始まる。

ところが人気パビリオンへの入場は事前抽選になっており、私は1カ月前に見学したいパビリオンに応募したが、全て落選した。もっと早い時期に応募していれば当選確率が上がることを、実は後から知った。さらに抽選再挑戦の機会もあったが、そこまではしなかった。

思い入れがあるとか何とか調子の良いことを言っていたが、意外に執念がない自分に呆れてしまう。



【大屋根リングの下】



【みやくみやく】

結局、予約なしであまり待たないで入れるパビリオンを観ることにした。小さな国々を集めた雑居ビルのようなコモنز館というパビリオンがいくつかあり、それらを巡った。

最初は暑さ凌ぎに冷房の効いた建物内に避難するという気持ちだったが、途中からその気持ちが変わっていった。それは世界にはまだこんなに知らない国があったのかという事を思い知らされたからで、世界 67 カ国を巡っている私にとっても、名前さえも初めて聞く国が多かった。

しかし良く考えると、誰でも知っている大国ではなく、無名な小さな国はこんな時でもないと思うこともない。言うなれば、これが本来の“万国”博覧会だと言ってもいいだろう。

そして今回の万博会場のシンボリックな建造物である大屋根リングを一周する。会場内が一望でき、海の向こうには明石海峡大橋も見える。

他も見て回ろうかと思ったが、あまりの暑さで早めに退散した。



【大屋根リングの上から万博会場の一部を見る】

■日本丸に乗船

大阪に宿を取った私たちは、乗船時間に間に合うように朝早く宿を出て、「神戸港中突堤旅客ターミナル」にやってくる。時間は 9 時 15 分、すると私の携帯電話が鳴った。

電話の相手は、なんと日本丸からで、「今どちらですか？」と聞いてくる。私は「もう目の前に日本丸が見えています」と答えると、「お見えにならなので心配になりまして・・・、お気をつけていらして下さい」と言われ、電話を切った。

私と妻は思わず顔を見合わせた。今まで多くのクルーズ船に乗ってきたが、電話をもらったのは初めてだ。それも乗船終了時刻より 15 分前だから信じられない。

日本丸に乗船する。私たち夫婦にとっては日本丸は 2 回目だが、前回よりも落ち着いた雰囲気になっているような気がする。それは円熟味が増したということかもしれない。

実はこの船は、来年の 5 月に引退する。1990 年建造ということで現在 35 歳だが、クルーズ船では定年の時期らしい。おそらく引退後は、万博のコモنز館で観てきたような国々で第二の人生を始めるのだろう。いや人生ではなく、船生か。

MSC スプレンドィダで知り合った仲間たちと落ち合う。実は彼らとは昨年も陸で会っており、LINE でもやり取りしているの、久しぶり感はありません。

近況を報告し合い、長い茶飲み話が始まる。私たちの座ったテーブルの上には冷えたビールやジュース、美味しいアイスクリーム、上質の牛肉を挟んだ小さなハンバーガーが置かれていく。そしてそれらは徐々に増えていく。美味しいのと無料サービスだからだろう。

頃合いを見計らって、私が「日本丸はどうですか?」と聞くと、皆が「最高、やっぱり日本の船はいいね」と口をそろえて言っている。私は「世界で有名な美食の船だけど、来年5月で引退するよ」と言うと、「えー、そんなもったいない」と返ってくる。

■美食の船のランチ

時刻は正午になろうとしている。あれだけ飲み食いしたのに、皆は「美食の船だからランチも期待できるね」と言って全員揃ってレストランに入る。

実は今回のクルーズはワンウェイであり、ワンナイトでもある。通常のワンナイトクルーズは夕方に出港し、翌朝に帰港するからランチがない。ところが今回はワンナイトクルーズでありながら、出港が午前10時なのでランチが付いている。これも今回このクルーズを選んだ理由のひとつになっている。

ランチのメニューはオムライスと書いてあるが、出てきた料理はフワフワのオムレツがケチャップライスの上に乗っている。言うならばオムレツとライスを分離させたオムライスで、各々単独でも美味しいが、脇に添えられている茸ホワイトソースと合わせるとさらに美味しい。オムライスにはケチャップソースという常識を敢えて外したようで、こだわりを感じる。

もちろんオムライス以外にサラダ、スープ、デザートも付いている。

皆も絶賛している。そして「さすが料理のオリジナリティも素晴らしい」という声が聞こえてくる。



【日本丸のランチででてきたオムライス】

■美食の船のディナー

満腹に近い状態なので腹を空かせるためにしばらく遊び、休息をとる。そして夕食の時刻になったので皆でレストランに集合する。レストランスタッフが私たちの様子を見て、ゆったり座れ

て落ち着ける席に案内してくれる。誰かが「席が決まっていて詰め込まれた MSC スプレンドッタとは大違いね」と言っている。

それはそうだろう。大型化することによって乗客を増やして単価を下げカジュアル船と、上質な料理やサービスを提供することを最優先にするラグジュアリー船とでは船のコンセプトが全く異なる。

料理が出てくる。前菜はサーモンのアスピックで実に上品な仕上がりをしていてもちろん美味しい。アスピックに添えられたレモン風味で塩味が効いたクリームが素晴らしく、これがアスピックを引き立てている。ちなみにアスピックとはフランス料理の冷前菜で、肉や魚の煮汁をゼリーにしたものだとレストランのスタッフが教えてくれる。

次はトウモロコシの冷製ポターージュで、冷やしたコーンスープにトウモロコシ入りのアイスクリームが入っている。女性陣は「アイスクリーム入りのコーンスープは初めてだわ、アイスクリームは甘味を抑えていて、中にトウモロコシが入っている。家でも何とか作れないかあ」と言っている。

感動した料理を自分でも作ってみようとする挑戦意欲は素晴らしい。それは料理の評価が高いことを意味しており、料理人にとっては最高の誉め言葉と言っていいだろう。

それは旅行についても同じことが言える。私の旅行記を読んだ結果、今度は自分も行きたいと言ってもらえることが、私は最高に嬉しい。



【サーモンのアスピック】



【トウモロコシの冷製ポターージュ】

料理は前回日本丸に乗船した時も感激したが、今回はそれをさらに上回っている。引退を意識して有終の美を飾ろうとしているのだろうか。

日本丸の料理が美味しい理由は、船のサイズが小さいから調理したての料理が早く出てくる。そのことは乗り組み員も充分理解しているようで、あまり待つことなく料理が出てくる。これが大型外国船だと結構待たされる。欧米人ならともかくもせっかちな日本人には馴染まない。

そうこうしているうちに主菜のローストビーフが出てくる。メニューにはローストビーフと書

かれているだけなので、誰もが一般的なローストビーフを想像していた。ところが出てきた料理を見て、皆は「何コレ、これは凄い！」と叫んでいる。

一枚の大きな平ぺったい肉が皿の上であり、ローストビーフなのに焼き跡があまりない。それはまるで高級すき焼き店で、割り下や具材を入れる前にすき焼き鍋の底にラードを引き最初に焼く肉のようであり、完全に予想を超えていた。

肉は柔らかく、もちろん美味しい。

ローストビーフなのでソースがかけてあるが、そのソースだけでなく2種類のワサビと梅肉エキスが付いている。肉にはワサビをつけて食べると味変で美味しくなることは良く知られているが、梅肉は珍しい。私にとっても梅肉は初めてで、これが肉に実に良く合う。これにはもはや脱帽するしかない。



【ローストビーフ】

ローストビーフを堪能した後、デザートにはバイクド・チーズケーキ、メロンとナシが出てくる。そしてコーヒー、紅茶でディナーが終わる。

皆は「さすが世界一の美食の船、引退するのは本当にもったいない」と言っている。

私は「大丈夫、次は第二の船生が待っているから」と言うと、「船生？何それ」と聞かれる。私は「日本丸に聞いて」とお茶を濁した。

■船内で遊ぶ

日本丸は美食一辺倒の船ではなく、小さいながらもそれなりに設備も整っている。

小さなプールがあり、その水は海水ではなく真水を使っている。小さいがゆえにできることかもしれないが、それゆえ小さな子供もたくさん入っている。

サウナ付きの大浴場もある。残念ながら水風呂がないのがもったいない。大きな船では混んでいて入れないことがあるが、日本丸は乗客がそんなに多くないから混むこともない。もっとも大浴場の有る船は日本船籍の船なので、現在ではこの日本丸と飛鳥Ⅱ、飛鳥Ⅲくらいだろう。

おっとダイヤモンド・プリンセスを忘れていた。あの船は外国船籍だが、日本仕様に変更して有料だが大浴場がある。もちろん日本丸や飛鳥は無料で、私は夕朝の2回、海を見ながら入った。

各種イベントも用意されている。私たちは輪投げ、ビンゴ大会に参加する。老若男女問わず結構な人数が参加している。

ハウスのバンドのコンサートを観て、ブリッジ（操舵室）見学ツアーにも参加した。ブリッジの航行装置類はさすがに船齢を感じさせるが、他の人たちはこのような場所に初めて入るようで、目を白黒させている。

夜はカジノに皆で繰り出す。私は、カジノはルーレットの経験しかないが、男性陣がブラックジャックが面白いというので挑戦する。女性スタッフがカードを配りながら懇切丁寧に教えてくれるので初心者でも十分に楽しめた。ちなみに日本丸は日本船籍なので、外洋に出ても日本の法律が適用されるためお金は掛けられない。



【ブリッジ見学】



【カジノのブラックジャック】

■夜食

夜食も用意されている。今宵は味噌ラーメン、シュウマイ、そしてフルーツやスイーツなどが揃っている。

さすがに先ほどまでディナーを食べていたので、そうは食べられないと言いながら、私は味噌ラーメンとシュウマイをいただく。シュウマイはなかなか美味しかったが、ラーメンはそれなりだろう。美食の船といえどもさすがにラーメンで勝負するのは難しいようだ。

今や日本のラーメンは日本の代表的料理になっており、わざわざ外国からラーメン目当てで来日する外国人もいるくらいだ。切磋琢磨して非常にレベルが高くなっている。お客の舌も肥えているので余程でないと感激しない。

そういえばイギリスの豪華客船「クイーンエリザベス」に乗った時、総料理長が日本に寄港した時に食べる日本食は、ラーメンとカツカレーだと言っていた。もはや日本のラーメンは世界レベルになっているということか。

■朝食そして下船

朝食は和定食と洋定食を選べるようになっており、私たちは和定食を注文する。ご飯は白米、普通の粥、ほうじ茶の粥から選べる。私はほうじ茶の粥を頼んだが、味も香りも風情があつてなかなかいける。これも日本丸のこだわりだろうか。

尚、定食は最低限だけになっているので、ビュッフェコーナーがレストラン中央に設けられており、スープ、サラダ、ハム、ソーセージ、カレー、スイーツ、フルーツなどの料理が並んでいる。

シェフがその場で調理するライブキッチンもあり、キャベツとタコのオムレツを焼いてくれる。人気があつて行列ができています。

私たちはゆっくりと朝食を食べながら他愛のない会話を楽しむ。そして10時に下船する。

5000人規模の大きな船では下船するにも一苦労だが、今回の日本丸は乗客390人ということで楽に下船できた。

乗船からちょうど24時間経っており、美食の船のワンウェイ・ワンナイト・クルーズが終了する。

■旅の記録

実施は2025年8月22日（金）～8月24日（日）の2泊3日、その行程を示す。

- ・1日目 早朝に自宅を出て新幹線で新大阪へ、9時に大阪関西万博会場に到着、見物
14時に会場を出て、大阪の保養所にチェックイン
- ・2日目 7時30分に宿を出て、神戸港中突堤旅客ターミナルで9時15分日本丸に乗船
- ・3日目 9時に横浜港入港、新港ふ頭9号岸壁に接岸し、10時下船、11時に帰宅

費用の総額は約17万円、費用は全て2人分で示す。

- ・クルーズ費用 128000円（2人分 1泊3食付 スーペリアツイン）
- ・万博入場料 0円（クルーズの特典）
- ・保養所 17320円（2人分 1泊2食付 夕食時の飲み物を含む）
- ・新幹線代 18950円（2人分 ジパング倶楽部3割引 自由席）
- ・その他 5000円（2人分 JR在来線と地下鉄、飲み物など）

尚、日本丸については2021年に乗船した時の旅行記「日本丸の船旅2021」で細かく紹介している。MSC スプレンドッタのクルーズについては、その後の交友も含めて旅行記「MSC クルーズ2019とその後」として残している。

各食事のメニューを旅の記録として残しておく。

